

校 歌

5

Moderato (第一楽章は2番と3番の間の楽章)

にほんのそらと ドイツのそらを むすぶひかりのあさあけに きぼ
うにあふれて はばた くわれら ライン
のかおりに こころもきよし お
お デュッセルドルフ にほんじんがっこう

校 歌

デュッセルドルフ日本人学校

作詞 中村瑞枝
作曲 杉谷昭子

- 一、日本の空と ドイツの空を
結ぶ光の 朝あけに
希望にあふれて はばたくわれら
ラインのかおりに 心も清し
おお デュッセルドルフ 日本人学校
- 二、日本の土と ドイツの土を
ふみしめながら 湧き出する
あらたなねがいを ひめたるわれら
ラインのほとりに 雄々しくたてり
おお デュッセルドルフ 日本人学校
- 三、日本の友と ドイツの友を
つなぐ歌声 高らかに
あかるく世界に のびゆくわれら
ラインの流れに 自由に生きる
おお デュッセルドルフ 日本人学校

1972年12月に発表された要項では、歌詞は3番までで明るく健康的で希望に燃えたりズミカルな口語定型詩、曲は明るくリズムカルで児童生徒に親しみやすいもの、メロディだけでも可、応募作品は一部修正されることがある等が条件であった。また歌詞、曲ともに応募作品は名前を伏せて記号処理をして審査に際しての公平を期した。

歌詞では締切りの73年2月末までに寄せられた作品中には入選該当がなく、同年5月末締切りの第2回公募から選ばれたのが**中村瑞枝氏の作品**で、一番から三番まで日独の天地人を踏まえ、かつ父なるライン河を背景に希望と清心、大願と雄魂、明朗と自由を詠った優れた内容を備えている。原作は作者の承諾を得て一部修正され1973年6月に入選作として発表された。

歌詞決定後の作曲募集は夏休み後の8月末となり締切りは10月末。歌詞が決まっただけでも良いこと、あるいは校歌制定に関する関心が高まってきたのか日本からの応募を含む19編が寄せられた。こうして校歌募集開始以来丁度1年目の1973年12月に**杉谷昭子氏の作品**が入選作として発表された。作曲者としては二重唱あるいは二部合唱で歌えるように作ったという。

校歌発表会は1974年2月1日に作詞者と作曲者を迎えて新校舎の体育館で行われた。

なお、作曲者の杉谷昭子(すぎたに・しょうこ)さん(コンサートピアニスト)は、2019年(令和元年)5月8日に東京で76歳で他界。生前杉谷さんは自分の作曲したデュッセルドルフ日本人学校の校歌が、在校生たちにも同窓生たちにも元気に歌われる姿を大変嬉しく思っており、同窓生の集まりがあった時は、多忙の中、都合がつく限り出席してピアノを演奏しながら皆さんと一緒に歌うのを楽しみにしていた。